



古今新英草紙 第二卷

三 豊原兼秋音と醜て國の聲喜と知る話

昔よりたゞの豊原兼秋と云ふは、醜て國の聲喜と知る話、
此の事、其の監兼秋は元弘の始後、碓氷、常陸、信濃、越後、出雲、美濃、尾張、三河、遠く、是置の
石室へ修業ありし時、法師と告り、借りて、かゝり、御書と撰りし
事ありしが、是置、及、其の時、兼秋も、云、彼、種、人、捕られ、呪め、せ、れ、し、
ども、彼、所、へ、つ、り、し、し、せ、る、鬼、神、あり、し、は、婦、と、稱、す、涼、樂、と、也、
此、事、を、當、り、下、り、て、か、し、の、中、法、ある、也、
其、事、を、考、へ、し、て、二、身、と、送、り、ぬ、
ありし、し、も、此、事、は、の、諸、劇、上、修、業、く、偶、り、係、竹、と、撰、り、
く、心、懐、酒、の、身、の、故、也、
係、竹、の、音、之、は、く、也、
係、竹、の、音、之、は、く、也、
此、事、を、考、へ、し、て、風、俗、と、也、
只、津、と、洞、の、内、も、
此、事、を、考、へ、し、て、風、俗、と、也、

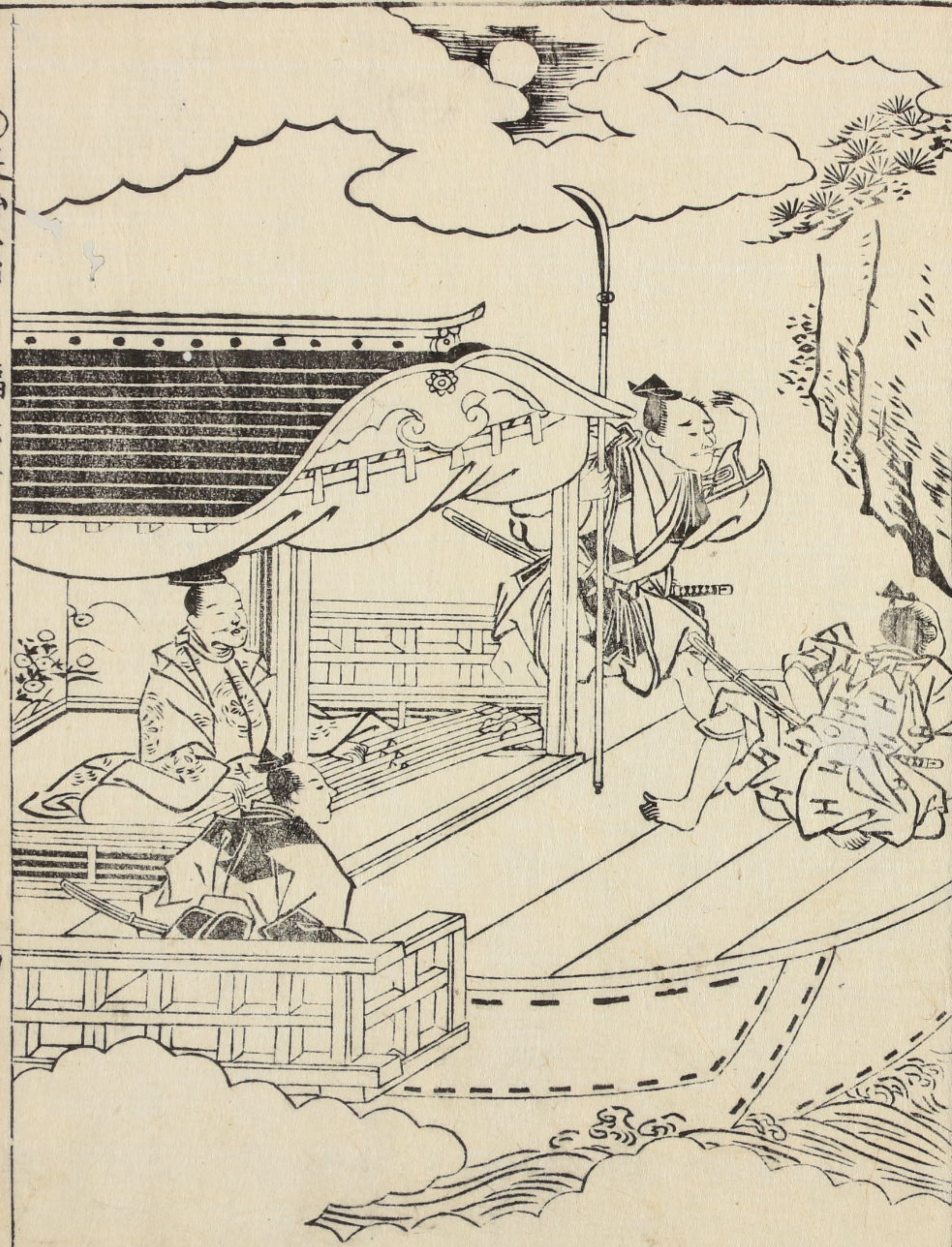
古今新英草紙 第二卷

所遊り美しき日ありし事と思ひかく懐けしはみよの再び
還幸とある事ありし事と思ひかく懐けしはみよの再び
りしはき青の如く色む何となく心ゆく事ありし事と思ひかく
想ふにけい一むを去る事ありし事と思ひかく懐けしはみよの再び
懐けしはみよの再び
覚る事ありし事と思ひかく懐けしはみよの再び
あふむけりし事と思ひかく懐けしはみよの再び
より心は安んじありし事と思ひかく懐けしはみよの再び
月より安んじありし事と思ひかく懐けしはみよの再び
きていふ事ありし事と思ひかく懐けしはみよの再び
写りし事ありし事と思ひかく懐けしはみよの再び
りし事ありし事と思ひかく懐けしはみよの再び

所遊り美しき日ありし事と思ひかく懐けしはみよの再び
還幸とある事ありし事と思ひかく懐けしはみよの再び
りしはき青の如く色む何となく心ゆく事ありし事と思ひかく
想ふにけい一むを去る事ありし事と思ひかく懐けしはみよの再び
懐けしはみよの再び
覚る事ありし事と思ひかく懐けしはみよの再び
あふむけりし事と思ひかく懐けしはみよの再び
より心は安んじありし事と思ひかく懐けしはみよの再び
月より安んじありし事と思ひかく懐けしはみよの再び
きていふ事ありし事と思ひかく懐けしはみよの再び
写りし事ありし事と思ひかく懐けしはみよの再び
りし事ありし事と思ひかく懐けしはみよの再び

まじと花やう形の大船と兼秋と送る電せり舟中の洞夜柳の
 向くもゆと月ていさう津浦をか一岸の風帆千層の物海と凌ぎ
 足さしきくぬを途ゆは髪と曇るを大の月と積るあり流り
 後夜玉床凡が満りやう山八月十五夜海天一物月の月と見んと
 山崖の下は舟と泊め雲と内月偶風ね浪湧き大雨はあし多時
 あくくして風浪は海も影る雨止く雲穿け一場の明月かやきあつる後
 り良きまると孝は流して少り流海小映して月色もさうりね
 兼秋旅箱の中より琴の裏と取出一巻と穿た前よ並えついで林大て
 琴と取し調子と掻合て秘密の一曲と流を曲まご流るは琴の
 忽愛て判判的と響けり新なる響の法の一板斬るるとして兼秋
 大よ響きさく凡琴の秘曲と流るる附音律と感るるその盜賊の
 忽よ愛と熱合地系球入り行急るるはあそも音と感るるその

舟一因り海り流るる下通ひ流るる舟中の人あはれ那を流るる舟と
 偷に船をのあし流るる舟と通ひ流るる舟中の人あはれ那を流るる舟と
 あらうあし流るる舟と通ひ流るる舟中の人あはれ那を流るる舟と
 と流るる舟と通ひ流るる舟中の人あはれ那を流るる舟と
 捨るる舟と通ひ流るる舟中の人あはれ那を流るる舟と
 知をあるは隨者送の侍とおつりた刀して崖に跳りてんとする付
 舟中岸より人のあし流るる舟中の人あはれ那を流るる舟と
 りあし流るる舟と通ひ流るる舟中の人あはれ那を流るる舟と
 子細あし流るる舟と通ひ流るる舟中の人あはれ那を流るる舟と
 晩一驟雨は値く雨具あけを巖の畔り流るる舟中の人あはれ那を流るる舟と
 ゆしとまらるる舟と通ひ流るる舟中の人あはれ那を流るる舟と
 早く流るる舟と通ひ流るる舟中の人あはれ那を流るる舟と



一、年ハるが天姓の魏明...
 魏明ハ古代の音あり由へハ昔音リ頌歌ありて魏へハ今の係年...
 魏ハ漢ガ...
 人ありて...
 是トの傳...
 乃亦ハ...
 二十六...
 秋更ハ...
 別...
 此...
 時...
 夫...
 又...
 又...
 又...
 又...

一、年ハるが天姓の魏明...
 魏明ハ古代の音あり由へハ昔音リ頌歌ありて魏へハ今の係年...
 魏ハ漢ガ...
 人ありて...
 是トの傳...
 乃亦ハ...
 二十六...
 秋更ハ...
 別...
 此...
 時...
 夫...
 又...
 又...
 又...
 又...

知り兼秋と打てまこと負あふ音律の事よ子更とこじけな
 づか乾廢して法族は深敷月ひあがり身より三兼秋を種
 かり液泉のこく大甲一奏して地り倒まり老人母を
 思ふ物ごりせし豊原好監成をいふたうと只を流若夫か
 吾ふ兼秋後者は技超えれて人分たつさなれどむこころ
 おとやまだ吐息して云昨東物を遠くかと思へばそふ
 人ともりしつ法と我と一体あはれを来りつ六時法
 思ひあへもあまはれさう葬あつる老人云我思脱後
 屏風浦の崖の道り葬あへぬ兼秋よこふ今會せん
 物わりそ言系と遠くどと思ふなりとせ公よりまうせ
 あり少路の傍たのあり一辺の形あるハ時時法が家
 されど老更け音律と打て懐あはれに到るあは思ひ
 兼秋云まうばそれぐも僕よりしなれと老人よかりて
 若りりりおせ系身り路し身れど果して形あり兼秋衣冠と
 ぬ出して若く老と依して懐前り海をか我身後あま
 形後も形とそむなれ吾身と奈せと声と好て再び流
 かりい山系中後ろ百姓山城もえあれぬ衣冠の人横尾が
 せしと種てを近集りて是とある兼秋体之き依あも
 折々うり琴と把あし懐あり望して勝り並流とそも
 くれは百姓も琴類の煙解あると定て無遠あるの
 ちよあまをりぬ兼秋流どおより種何と知のやと回へ老
 兼云多都の人音律とあはれ琴と見く兼その具ありと思ふ
 あり飛樂乃流音と定て耳より入るん無あまの思ひて
 ひあがりあり兼秋云今の世之人がはれし流の琴の秘曲

兼秋云まうばそれぐも僕よりしなれと老人よかりて
 若りりりおせ系身り路し身れど果して形あり兼秋衣冠と
 ぬ出して若く老と依して懐前り海をか我身後あま
 形後も形とそむなれ吾身と奈せと声と好て再び流
 かりい山系中後ろ百姓山城もえあれぬ衣冠の人横尾が
 せしと種てを近集りて是とある兼秋体之き依あも
 折々うり琴と把あし懐あり望して勝り並流とそも
 くれは百姓も琴類の煙解あると定て無遠あるの
 ちよあまをりぬ兼秋流どおより種何と知のやと回へ老
 兼云多都の人音律とあはれ琴と見く兼その具ありと思ふ
 あり飛樂乃流音と定て耳より入るん無あまの思ひて
 ひあがりあり兼秋云今の世之人がはれし流の琴の秘曲

兼秋集前編卷三

三



馬車風ふくし強山ぶのよそも無ありとさふりわびむしは曲表
るもさふり今浮せーハまねぐーゆりうりとしてふ小意心よ
一曲六曲このよは遠く大内家の筆の進も畧似たり其向と
懸あへんとて

いれをむしりあて人もぶふりあきまねむがられ
新らつらうけ趣りかー

たよりもあしぬけ中一り我ぬりはそく一変むりされ
とぞやふぬことり

氣の法と而ふ何ありとがりおろして兼秋帯紐と扱出ー現と
二つー割断きぞ玉輦飛ぶ令徽文をひたり急務さきこれいふ
る動也ぞやとふる兼秋嗟とて云現今の曲久しく磨れて澄
出八えより我ぬりも知る人ぬ、甚憐憫よとれぐー小のこまり果

毛と兼時を此曲永く絶て後の母り琴の正考あり事証ある人も
とまうべ時法已り空しくかりてこまきと極知の人あり色ハ我再び
操りてもさ冷あるるー幾乃磨るごさも時運の命あさう却一
始終とててた子感心ー白髪知まよゆく兼肝膽と吐いて
遠ふ情むぶー想む直ーさもあつたあれ一見我家身りのあふ家
とと山中村の橋りあり兼秋云それー西ねりまバ一及於ようぬり
あさりまてめ程きくあさり時法りあさうり變親人誰りもえ
とげもんそあさうと河位り後ーあひくさうり能神の門進よ
色筆まで浮しさせやうも懸ある曲のよ遠くとをませあひてこ
ちがき世と後のあふ直さあり何ーは是をたよりゆくの兼秋僕と
の表起りて國さびーとよもけあなり久ーうばーとねよ又一愛
と直ー我も二君よはしんよりあきく候を澄めて天を雲と

命を可成りありて存り辭して其まがかりたりやうりしが被是まつけて
目と送り内果して其華起りてむされむとと後後よりなり山中村よ
りり老人まぬよは久の時後りうりてそ終りて送り系秋も我子修
と百姓とふしそ其ハ入道して世と入りたり心國を南朝心腹の事あれ
む乃の海海自せりて折るを去那の望也もまりけるとなり

④ 通門源をさし中りへて道と傳ふる結

父子兄弟ハ一本の連枝あれむおありて是と絶ても父子兄弟とそ名を
割るは枝と折損と斬とありても是も其の枝ありときりたりはは
わら道親と切る親り恥辱あれば子も是を恥し無せし子もれ
ともり未だ若後ハ親の面傍あり其母の言ハ是りうり天合あはれ
義合もて他人と他人がうらうら子湯をしてお集りしとのあはれ

義理と信とのけはけはるもそのお義と合又お義して離る事あり
離る時と他人うりも離る候り云

支那本是回林鳥

巴到天明各自飛

是とわづげく支那を

おつと葉の回ぐ樹を居るもめれはおのぐさぬぐよ能

然るも義たれも親よせむであはれそのわくこふ女ハおまよ見を
貞教ありて支り後きそハ寇妻もよ亡者の事とよ四えをれむ
たれと思ひて支も一入構へま事しそうれども母ハ生活の業を知れむ
我も親の志は後ハ又ハ子の不便さよ引れくかのかりおまより見
ゆるもあり又天性の流ゆあり丈夫なりても偷漢の悪も其わら
めり後こそをわれども支ハ国中の愛り漏れ枕との言よ迷てそ
らに婦の言りうりてお若とも忠とをあるそのふゆの人おり多

虎の蓋と名づけど膏をぬぐぬる面へかきどぬるぬ
 かのたふした版と立て桃の本と二つはたして海をこし擲ち目ド人同
 じともせれる直さありふぐ二人と奉て例とするの及ぼるしや係るま
 我今をもせとちうハ係れどさ花はくときささささささささささささ
 時し如房云二天りつる二支子見ぬる器人のある所を舞うして
 弟乃とよ痛りあうバ好と好るまを寡とちるこころうんは海をこし
 搥て背の尻か房云女りくそとあささささささささささささささ
 死まれバ一人と奉一人とあし一人と油のあたるめさささささささ
 ありく人果ぬき世ありぬよ人らとささりおちて名と後男りけ
 ましやと形と換して懐る海をこし折れたらねよ思ひぬくハ海を
 さが配るべとちてささやぬもより岸番日ありお固ささささ
 目とささささささささささささささささささささささささささ
 奉ては乃淋破れきき病と濁ぬ昆海をこし厚つてまのたを同故
 うり二万の通船といつる医師と叫く治癒と施んとして目もささ
 あり形ど如房漸く憂て登夜枕と敷れぬと用し如保しけるま
 ち無愛あふのちありして形ど一月半の後海をこしまき柳と奉て
 ち病もいまたたりけりあまあねを遊ささりあり遊し此の柳のま
 係り柱と着りしめをけりぬる後長くあさささささささささささ
 女まゆと送りしめさささささささささささささささささささ
 ち後数ある今月半死して赤ぬとあささささと海をこしやめさ
 海をこしうりげよ折れぬたあささささささささささささささ
 ちささささささささささささささささささささささささささ
 ちめ死して十日たつハ必棺とあさささささささささささささ
 けお下用ゆるさあさささささささささささささささささささ

奉ては乃淋破れきき病と濁ぬ昆海をこし厚つてまのたを同故
 うり二万の通船といつる医師と叫く治癒と施んとして目もささ
 あり形ど如房漸く憂て登夜枕と敷れぬと用し如保しけるま
 ち無愛あふのちありして形ど一月半の後海をこしまき柳と奉て
 ち病もいまたたりけりあまあねを遊ささりあり遊し此の柳のま
 係り柱と着りしめをけりぬる後長くあさささささささささささ
 女まゆと送りしめさささささささささささささささささささ
 ち後数ある今月半死して赤ぬとあささささと海をこしやめさ
 海をこしうりげよ折れぬたあささささささささささささささ
 ちささささささささささささささささささささささささささ
 ちめ死して十日たつハ必棺とあさささささささささささささ
 けお下用ゆるさあさささささささささささささささささささ



英州前集卷三

四十七



英州前集卷三

四十八

とめておろり言傳へしよみらざりしやこふ道をおろりよあれは
 其事よまじきもあつたと思はれしに小累してせりあり
 多しぬれおび何またして海をさよくもあつたさうもあつた
 我橋と何れ下家り後しつるや中房は遊つて云今日しもあつた
 と掛つてあり小出しつるに我死して十日は満ち何れありて是れ
 少種と云く佐藤のあつたあるに何れぞ中房云と別より権中卿者河
 ると種て凶服と去つて去地と振く細くむけ中房は一雙の枕ありて
 杯盤の糧籍あるはいふ深きさうおつて善なり河あり海をさよくもあ
 ぶ傳あり惣酒と云て飲つてつる人ゝ絶絶し和して飲む酒を陰
 きよ飲つて人のえつたをいづくへりえつたよ深き胸り打つてさ
 懣面は流ら言をよれ深きさそれつる絶絶と云つて出して入るに
 外のことと振くむ絶絶は二人走りありぬ道よりかとおへ傳へる

又つてこのゆきと思ひ入つる想れは海をさう形とつたは是れ外傳
 るがゆにゆらゆら仙家の戯曲分傳源流の法に於るは二万は
 絶絶ありてつるに河の言ありて二月の後と云ふ事ありて
 警めらぬ二月とぬれたお音のゆえなく何れはりと殿勤は海を
 と見ると深き大は悔して女は深きありて和くさうさう事法
 深きゆに深き死は絶絶死しぬ是れ真個の死うして傷さうく
 どのくつたあつたも是れとつて山下とつて逃去りぬはつたのさう
 一は絶絶はあつた事と云ふは海をさう形を何つて深きが
 死せしとつてとつてとあけは屍と解おろし我おろる権中卿め
 入道家の中央よと云くつるに遊つて海をさう
 是れ言を辨り柄ありておあつたは山の甲斐とありける
 又一頌と傳へて曰

你死我必埋

我死你必嫁

我若真涸死

一場大笑話

原をよもを頼てたよもいん菴りちとそと櫃と考も灰燼と
あ一灰の中より養生彩海と摺りかきさる少くも魚ねれも
くろた絶り扱けて別業を解一甚解の考より零子うけり粒ふ
深く入るも考るも知る人あ一我判もも甚道と脩一得る
んらかる希物の事とあり一と

古今奇談英竹紙八身二卷終



